

PROGRAM

ハガニーニ変奏曲 op. 35 ブラームス

超絶技巧練習曲 リスト

No. 9 回想

No 10

プレリュード集 第2巻 ドビュッシー

四季のコンサート 夏

1993年7月14日(水) 6:45 PM

1996年7月27日付の「NHK文化欄」に、NHK文化欄編集部、大野、西川千鶴子著「NHK文化欄」が紹介された。1996年7月27日付の「NHK文化欄」は、NHK文化欄編集部、大野、西川千鶴子著「NHK文化欄」が紹介された。1996年7月27日付の「NHK文化欄」は、NHK文化欄編集部、大野、西川千鶴子著「NHK文化欄」が紹介された。1996年7月27日付の「NHK文化欄」は、NHK文化欄編集部、大野、西川千鶴子著「NHK文化欄」が紹介された。

(2016年3月) 購買類

$y - y' \in \partial C$

野島 稔 ピアノ・リサイタル

バガニーニの主題による変奏曲 Op.35

ブラームス (1833~1897)

バガニーニ (1782~1840) は19世紀前半に活躍したイタリアの作曲家であるが、11歳で最初の演奏会を開き、その後、超人的な技巧を駆使するヴァイオリニストとしてヨーロッパ各地で活躍した。ドイツ出身の作曲家ブラームスは、このバガニーニの無伴奏ヴァイオリン曲「24のカプリッчи」からとらえた主題を用いて、28の変奏からなるピアノ曲「バガニーニの主題による変奏曲」を作曲した (1863年)。バガニーニの主題を用いながら、高度な演奏テクニックの効果をねらった作品は、ブラームスに限らずシューマンやリストなど、当時の多くの作曲家に見られる。こうした19世紀の傾向は、優れた技巧はそれだけで価値があるという考え方が一般に認められていたことを示している。

超絶技巧練習曲集 S.139

リスト (1811~1886)

リストは演奏家としてもくピアノの魔術師とまで言われたハンガリー出身の作曲家である。12曲からなる「超絶技巧練習曲集」は、1851年に完成された作品である。その初稿はすでに1826年頃に出来上がったのであるが、さらに1839年と1851年に書き直されている。この3つの楽譜の間には、約25年にわたる作曲家としてのリストの成長の跡がくっきりと残されている。全体的に極めて華麗な技巧が駆使されており、名人芸がもてはやされたロマン派の典型的な作品とも言えるものである。全12曲はハ長調で始まり、第2曲が平行調のイ短調となり、以下、フラット5つの調号まで長調と短調の曲が交互に並べられていく。つまり、調号のフラットが一つずつ増えていくように配列されているのである。12曲のうち第2曲と第10曲以外にはすべて標題が付けられている。本日演奏されるのは、第9番変イ長調「回想」と第10番ヘ短調の2曲である。

前奏曲集 第2巻

ドビュッシー (1862~1918)

前奏曲集の第1巻 (12曲) は1910年に、第2巻 (12曲) は1912年に作曲され、全体で「24の前奏曲」を構成している。第1巻の各曲の間にはそれほど密接な関係がなく、かなり自由に書かれているが、第2巻ではさらに新らしい表現方法の可能性が追求されている。そこには、すでに晩年に達していたフランスの作曲家ドビュッシーのピアノ音楽のすべてが結集されている。第2巻の12曲には、次のような標題が付けられている。

1. 霧 2. 枯葉 3. 酒の門 4. 妖精達はあでやかな踊り手 5. ヒース 6. 風変わりなラヴィース将軍 7. 月あかりのもとで会議が開かれる露台 8. 水の精 9. ピクニック禮賛 10. エジプトの壺 11. 交替する3度 12. 花火